

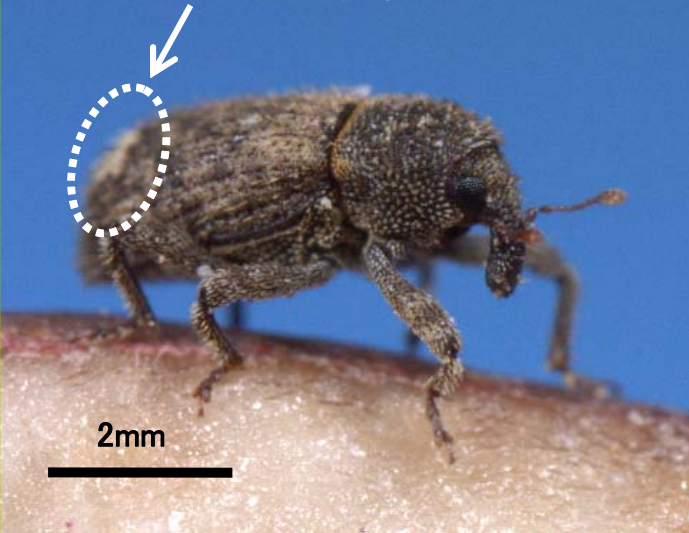
平成25年度病害虫発生予報第5号(8月予報)

＜お知らせ＞ 水稻(二期作)に向けての病害虫防除対策についてのコラムがあります(12ページ参照)。
マンゴーにおける収穫後の病害虫防除対策についてのコラムがあります(13～14ページ参照)。
イネヨトウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しております。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/documents/h25-ineyo.html>

今月のトピックス

成虫

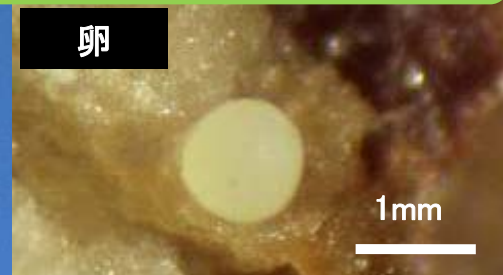
灰白色の横帯



イモゾウムシ (カンショ)

学名 : *Euscepes postfasciatus*

卵



幼虫



蛹



被害塊根(イモ)



生態と被害

本種は、アリモドキゾウムシと並び、カンショの最重要害虫の一つである。西インド諸島原産で、南米から太平洋諸島に広く分布しており、国内では奄美諸島以南の南西諸島および小笠原諸島に生息する。成虫の体長は3.5～4mmであり、アリモドキゾウムシよりも全体的にずんぐりした卵形のゾウムシである。体色は灰褐色ないし濃褐色で、体全体が小さな刺毛や鱗片で覆われ、上翅背面に灰白色の横帯があるのが特徴である。成虫は翅を持つが、飛翔することはできず、主として寄主植物の移動に伴って分布を広げる。27℃条件下では、塊根への産卵から成虫の脱出までの発育日数は約54日で、沖縄では年約4世代経過し、周年発生する。卵～蛹はカンショの他に、エンサイやアサガオなどのヒルガオ科の植物体内に寄生する。本種に加害されたカンショは苦味と悪臭が生じ、食用、加工用および飼料用としても利用できない。被害が深刻なことから、アリモドキゾウムシと同様に、植物防疫法により発生地から未発生地への移動が制限されている。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojournal/index.html>